

近現代史(41)「ヴェルサイユ体制下の西ヨーロッパ情勢」

○今回のポイント

1925年のロカルノ条約を契機に国際協調が進展するかに見えたが、経済復興を達成しないまま29年に世界恐慌に見舞われて破綻した。

【国際協調と軍縮の進展】

(1) WW I 後の国際紛争

※戦後しばらくは国境画定や講和条約に反発する国際紛争が続発した。

オスマン帝国	<ul style="list-style-type: none"> ・ [1. <u>ムスタファ=ケマル</u>] のもとでギリシアと戦い領土の一部を回復。 ・ セーヴル条約を改定して [2. <u>ローザンヌ条約</u>] を結ぶ。
ポーランド	[3. <u>ポーランド=ソヴィエト戦争</u>] → ベラルーシとウクライナの一部を獲得
イタリア	ユーゴスラビアと国境紛争。 [4. <u>フィウメ</u>] 獲得。
仏・ベルギー	ドイツのルール工業地域を占領 [5. <u>ルール占領</u>]

(2) 1925年以降の国際協調

・ 24年の仏エリオ左派連合政権成立とドーズ案により国際協調の気運が高まる。

※ [6. ドーズ案] → ドイツの新賠償方式。アメリカ資本の貸与と支払方法と期限の緩和が内容。

a) [7. ロカルノ条約] (1925)

- ・ i. ドイツ外相 [8. シュトレゼマン] とフランス外相 [9. ブリアン] の協調外交
- ・ ii. ドイツが国境の維持(アルザス・ロレーヌ仏領) と [10. ラインラント非武装] を承認
- ・ iii. フランスがドイツの [11. 国際連盟加盟] を承認(26年英仏と対等の常任理事国として加盟実現)

b) [12. パリ不戦条約] (1928)

- ・ i. 米国务長官 [13. ケロッグ] と仏外相 [14. ブリアン] の提唱
- ・ ii. 各国が国際紛争解決手段として戦争に訴えない事(= [15. 戦争放棄]) が誓われた。

c) [16. ロンドン軍縮会議] (1930)

- ・ [17. 補助艦] の制限。米英：日の保有トン数比率を 10 : 6.975 とする。

【西欧諸国の衰退】

(1) 英仏の経済的不況

→ WW I 後、海外領土を増やしたが、経済的打撃から回復せず、不況に苦しむ。

(2) 戦間期イギリス

① 選挙法改正

1918	第4回選挙法改正	18. <u>ロイド=ジョージ</u>	21歳以上の男性と30歳以上の女性に選挙権
1928	第5回選挙法改正	19. <u>ボールド=ウィン</u>	21歳以上の男女に選挙権

② 労働党政権

- ・ 戦後、自由党にかわって [20. 労働党] が保守党に次ぐ第二党の地位につく。
- ・ 1924年 労働党党首 [21. マクドナルド]、自由党と連立内閣を組織 → 短命に終わる
- ・ 1929年 労働党、第一党になる → マクドナルドが再び政権につく。

(3)戦間期アイルランド

- 1922 自治領[22. アイルランド自由国]成立(除く；北部アルスター地方)
- 1931 [23. ウェストミンスター憲章]…26年と30年のイギリス帝国会議により成立。各自治領はイギリス連邦の一員として、王冠への忠誠のもとに本国と対等の地位を得る。
- 1937 [24. エール共和国]独立…アイルランド独立派が王冠への忠誠宣言を廃止、独自の憲法を整備して連邦から分離した。

(4)戦間期フランス → ドイツの強国化を恐れ、賠償支払いを厳しく要求。

- 1922～24 [25. ポワンカレ]右派内閣…ドイツの賠償支払い不履行を理由にベルギーを誘ってルール占領。
- 1924 [26. エリオ左派連合政権]…ポワンカレの対ドイツ強硬外交が国際的批判をあびて失敗後、成立
- 1925 [27. ブリアン]外相の国際協調路線 → ロカルノ条約、パリ不戦条約

(5)戦間期ドイツ → 1925年まで政局は安定せず。

- 1918 [28. ドイツ革命]…キール軍港の蜂起から労働者・兵士のレーテ(評議会)が成立。皇帝ヴィルヘルム2世が亡命
〃 大戦終結…ドイツ社会民主党の[29. エーベルト]を首班とする臨時政府が連合軍と休戦。
- 1919.1月 [30. スパルタクス団]のベルリン蜂起…社会民主党左派のカル＝リープクネヒトやローザ＝ルクセンブルグが結成した急進的の革命組織であるスパルタクス団が、18年末にドイツ共産党を組織して、19年に一斉蜂起。社会民主党政府と軍部により鎮圧された。
- 1919.2月 ヴァイマル国民会議…エーベルトを大統領に選出。[31. ヴァイマル憲法]を制定(男女平等普通選挙権や労働者の経営参加権など社会権を保障する反面、大統領の任期は7年間でしかも非常大権を持つ。)
- 1920 [32. カップー揆]…右翼、軍部のクーデタ → 失敗
〃 [33. 国家社会主義ドイツ労働者党](ナチス)成立
- 1921 ドイツの賠償金が1320億金マルクに決定。(金マルク：1マルク=金0.358g)
→ドイツ世論は反発。政府は賠償金支払い延期を求める。
- 1922 仏で対独制裁を唱える[34. ポワンカレ内閣]が成立。(同年[35. ラパロ条約]でソ連を承認)
- 1923 賠償不支払を理由にフランスとベルギーが[36. ルール占領](石炭を押収)
→生産の停止(労働者ストライク)で抵抗したため、政府はその費用を負担せざるをえず、ハイパーインフレーション。シュレゼンマンが抵抗を中止して生産を再開。新通貨[37. Rentenマルク]でインフレを鎮静すると、賠償義務の履行を約束し、協調外交に転換。
〃 ナチスの指導者ヒトラーが[38. ミュンヘン揆] → 1日で鎮圧。
- 1924 アメリカの提唱により[39. ドーズ案]が成立(米国が独に投資して経済復興を援助→独が英仏に賠償金を支払う→英仏が米に戦債を支払う)。
〃 フランスで対独制裁に反対する[40. エリオ左派連合政権]の成立 → ルールから撤兵
- 1925 [41. ロカルノ条約]が成立 → 翌年国際連盟参加。

(6)ドイツ経済の破滅

- 1925 エーベルトが死ぬと大戦中の参謀総長で帝政主義的心情を持つ[42. ヒンデنبルク]が大統領になる
→国民の中にある深い政治的亀裂の証明
- 1929 [43. 世界恐慌]により米利資本が引き上げられる→経済は破滅的状況となり国民生活や議会政治が混乱。
※ドイツの賠償金負担を軽減する[44. ヤング案](29年)や[45. ローザンヌ会議](33年)で減額されたが、ナチス=ドイツは支払そのものを拒否した。